

肝細胞癌（いわゆる肝癌）は日本のがん死亡のうち5番目に多いとされるがんです。以前はC型やB型肝炎ウイルスの感染による肝癌が多かったのですが、近年は輸血・注射針によるウイルス感染がなくなり、B型肝炎ワクチンの普及や、治療の発展でC型肝炎が治る時代となったことなどから、ウイルス性肝疾患による肝癌は減少しています。その一方で、長年の脂肪肝から肝硬変に至り、肝癌を合併する人が増えているのです。脂肪肝はありふれた疾患であり、すべての脂肪肝が肝硬変・肝癌

に至るわけではありませんが、ありふれているからこそ「たかが脂肪肝」と放置されがちです。脂肪肝の治療の基本は生活習慣の是正ですが、薬物療法の適応となる人もいます。生活習慣の是正は脂肪肝のみならず、合併する代謝性疾患(糖尿病、高血圧、脂質異常症など)の改善にもつながります。肝癌予防の観点から、放置されがちな脂肪肝の受診・生活習慣是正・治療の検討をしてみませんか。

消化器内科 主任医長 浜野 由花子